

緑川・加勢川 下流散策 コース

見! 南区には大きな川がたくさんあり、「南区の自然は川!」という人もいるほど。かつては物流の中心として活躍した緑川や加勢川は、船着場跡や御船手渡し場跡など、今も多くの歴史を物語ります。豊かな自然を満喫しながらのウォーキングやサイクリングがおすすめ!

- 1.3km
 - 1.7km
 - 2.3km
 - 0.5km
- ① 観音寺(船板観音)
 - ② 中無田閘門
 - ③ 六間堰
 - ④ 堤防沿いの桜並木
 - ⑤ 河口の葦原

距離
約5.8km

★ ViewPoint①

御船手地区の堤防沿いからは、対岸に広がる川尻の船着場跡や御船手渡し場跡の石積み、JRの新幹線や在来線の橋りょうなどが一望できます。江戸時代の舟運、JR在来線から最新の新幹線へと、時代の移り代わりに思いをはせて。

★ ViewPoint②

道の両側に加勢川と緑川が流れるのを見ることができます。大きな川の真ん中にいるようで、爽快です。

堤防沿いの桜並木

⑤ 河口の葦原



はまっち

①～⑤は、26～27頁で紹介しています。



ここもおすすめ 「川エビ釣り」

緑川では、昔から川エビ釣りが楽しまれてきました。子どもの頃、テトラポットの間に魚釣りの要領で釣り糸をたらずと、面白いように釣れたという人も多し。丸ごと素揚げにして食べると、香ばしくてとっても美味しいのです。今も、国道3号と新幹線の高架橋の間くらいの川岸は、川エビ釣りポイントとして親しまれています。春先、4月から5月頃がたくさん釣れるのでおすすめ!

緑川・加勢川

緑川と加勢川は、六間堰を過ぎて合流するまで、並行して流れています。堤防沿いの道路は、自転車や自動車でも通ることができます。加勢川にかかる新町橋の際から堤防沿いの道に入ると、中無田閘門を過ぎたあたりから、両方の川の距離はさらに近づきます。二つの川を眺めながら真ん中の道を歩くのは、なんとも気持ちのいいものです。この堤防沿いの道路、六間堰を天明地区側に渡ると、海岸沿いの堤防につながっていて、飽田地区の四番漁港までずっと舗装された堤防となっています。天明地区や飽田地区に広がる農地を眺めながらのウォーキングやサイクリングも楽しいですよ。



中無田閘門



六間堰



観音寺

① 観音寺 (船板観音) チェックしながら行こう -->

福井県永平寺の開祖道元禅師は、中国への帰路、嵐にあいながらも、観音様に助けられ、川尻の港に上陸したと伝えられています。観音寺には、道元禅師が上陸した浜辺で船板に彫ったといわれる観音像「船板観音」が奉納されています。

② 中無田閘門 なかむたこうもん

中無田閘門は、緑川と加勢川の水位を調節して船を通す水門で、木造門扉の現役閘門は、全国でも珍しい貴重な施設です。カヌーや手漕ぎボートなどの体験学習のほか、プレイパークには投網や船のろ漕ぎ体験コーナーもあります。

③ 六間堰 ろっけんぜき

約400年前、加藤清正公によって造られた六間石樋が始まりと言われ、河川改修とともに現在の六間堰が再構築されています。川をしめきり、田畑へ水を取り入れるための用水堰で、農産物の生産のために必要な施設です。

見！ 加勢川船下り
毎週日曜 (12/1 ~ 1/31 を除く)、加勢川で船下りを体験できます。川尻のまちの歴史や川の話聞きながら、2時間程度の川舟での川下り、普段は見られない川からの景色が楽しめます。(1人500円、最小10人~最大30人受入可能。14日前までに要予約)
※詳細は加勢川開発研究会 096-357-5568



河口の葦原

④ 堤防沿いの桜並木

堤防沿いに、桜の木が並んでいます。春のお花見シーズンには、緑川からの風を受けながら、気持ちよく過ごせそうです。もう少し足をのばして海路口町の方までいくと、こちらにも桜並木が。400mほどつづくお花見ポイントとしてにぎわっています。

⑤ 河口の葦原

緑川河口に広がる広大な葦原です。関東では「ヨシ」、関西では「アシ」と呼ばれていて、「良し悪しの区別がつかない」とは、この葦からきているとか。昔は夏の「よしず」を作るために大活躍したそうです。

★ 船着場跡、御船手渡し場跡 ふなつきば おふなてわた ば

江戸時代に緑川や加勢川の水運を利用して年貢米や物資の陸揚げをしていた船着場は、合計14段の石段が約150mにわたり造られています。この船着場の下流にある御船手渡し場跡は、昭和36年までは川尻地区と対岸の杉島御船手地区を結ぶ船渡しとして、買い物をする人たちに利用されていました。藩の年貢米倉庫として建てられた米蔵とあわせて、「熊本藩川尻米蔵跡」として国の史跡に指定されています。



加勢川(右)と緑川(左)が並行して流れる



川尻精霊流し

見！ 川尻精霊流し
毎年8月15日に加勢川で精霊流しが行われます。江戸時代から400年以上続くとされる伝統行事で、暗闇の中、加勢川を無数の精霊舟や万灯籠の灯りが静かに流れていく様子はとても神秘的です。